

ガガンボ科の仲間

Tipulidae sp.

ガガンボ科

名前の由来

ガガンボとは「蚊が姥（かがうば）」がなまったものと言われている。漢字名：大蚊



ミカドガガンボ幼虫（左上）ガガンボの仲間の幼虫（左下）キイロホソガガンボ成虫の交尾（右）

ガガンボ一般

たくさんの種類を含む大きなグループ。幼虫は広い範囲に渡って生息している。幼虫・蛹については不明点が多い。
形態的特徴：幼虫の大きさは5～25mmと種によって様々。大部分は肢（あし）を持たない。また、頭は普通引っ込め

ているため見えない。

大部分の種は尾に呼吸盤を持ち、その中央に1対の気門を開いている。ただしウスバヒメガガンボ属には気門がない。成虫はカによく似た肢の長い昆虫。冬は幼虫で過ごす。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）花

（外来種）花

哺乳類

（水辺）鳥類

（草原）鳥類
（森林）

ウスバヒメガガンボ亜科

Antochinae sp.

名前の由来

翅が薄くて小さいガガンボの意味。漢字名：薄翅姫大蚊

形態的特徴

幼虫の特徴：5mm程度。第2～7腹節背面に歩環帯（腹節に帯状に盛り上がって肢の代わりに使う）がある。

成虫の特徴：カに似るが若干大きく、さらに華奢で、肢は長い。

類似種と見分け方：オビモンガガンボ亜科。

オビモンガガンボには歩環帯が無い。



ウスバヒメガガンボの仲間（標本）

生息環境・分布

上流から下流までの広い範囲に生息する。石面に絹糸で膜をつくり、その下側に生息する。

分布：国外分布は、ロシア極東部。

国内分布は、日本全土。

北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

藻類を餌とする。

魚類などの餌となる。

興味深い話

■水中での羽化時にヤマメに多数捕食される。

■普通の河川に多く生息する普通種だが、絹糸で作られた巢内にいるため目立たない。

繁殖生態・寿命

不明。

配慮事項

付着藻類が石面に繁茂できる環境が必要である。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
卵期・幼虫期	■												
成虫期				■									

参考文献

「アングラーのための水生昆虫フィールドノート」宮下力 出版文化社 2000

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

「水生昆虫アルバム」島崎憲一郎 フライの雑誌社 1998

「日本動物大百科昆虫Ⅰ」日高敏隆 平凡社 1996

「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター 1996

「滋賀の水生昆虫・図解ハンドブック」谷田一三・竹門康弘 監修

滋賀県小中学校教育研究会理科部会 編 新学社 1991